

めて来てるわけですから、やっぱり残してよかったなと思ってんです。ただし、直営でやって、今の定時補助職員の人を正職員にするっていうのは、なかなかそう簡単にはいかない。したがって、社会福祉協議会にお願いしたいということなんです。社会福祉協議会は検討すら今までしてこなかったわけですから。したがって、社会福祉協議会の幹部、役員の皆様と相談したときに、そういったこともやっていただけないかということで、まさに宇津木議員が今おっしゃっていただいたとおりであります。施設については、我々、市で建てた場合は全く補助が出ないのに、社会福祉法人でやれば、3分の2の補助が出るわけですから、しかも、我々がいろんな形で支援すれば、ほとんど整備にお金をかけずにこれができる。運営については、きちんとした形でやっていけるとお思いますので、あとは周りのまちから我々が受け入れた場合は、それなりに周りのまちからもご支援いただいて、やっていくということで行っていきたくお思います。したがって、宇津木議員のご提言についてはごもっともで、私どももそれを早く実現したいので、社会福祉協議会を変えていかないとだめだなと、こういう言い方は失礼ですけどね。やっぱり役員の皆さんも現場がわかってないわけですよ。理事の皆さん、評議員の皆さん、一生懸命なさってるんですけど、現場がわからない。ですから、現場をちゃんと管理して、なおかつ将来の地域福祉の担い手である社会福祉協議会をきちんとした組織にするには、やっぱり常勤の役員が必要だろうということで、今回させていただいたとおりでございますので、ぜひこれを実現すべく、私どももお願いしてまいりたいとお思いますので、宇津木議員からもご指導お願いしたいとお思います。

○**渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。

○**1番 宇津木正紀議員** 市長も私も同じような考えでよかったなとお思います。検討もしても

らえなかったのは何年前だとお思います。最近までなんでしょうか。そこが、最後に市長がお願いして、だめだったのはいつごろだったでしょう。検討してもらえなかったって、さっき答弁しましたが、市長は、それはいつごろだったんでしょうか。わかります。市長は、社会福祉協議会にすみれ学園お願いした。だけど、検討してもらえなかった。その時期はいつごろだったんでしょかと。よろしいですか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** これは、ここ最近のところ、去年、おとしあたり。だって、そういうことを考えていないんです。だって、考える人がいないんですよ。例えば前の会長さんなんかは、詳しいことをよくわかってる方でしたから。ですけども、その後、なかなか引き継いでくださる方がいらっしゃらなくて、今は、今の会長さんを初め、役員の皆さんも一生懸命ですが、やはりすみれ学園みたいに社会福祉協議会にかかわってない組織については多分ご理解ないと。事務局がうちから行ってる事務局長ですから、結局、そんな余裕到底ないということで、私は検討できる段階ではないとお思います。

○**渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。

○**1番 宇津木正紀議員** 会長はかわったようですが、ほかの役員もかわっておるようですので、ぜひ市長、粘り強く社会福祉協議会にこの件についてお願いして、改革しながら、進められそうだって、私、感触いただきましたので、ぜひすみれ学園よくするためにお願いしたいとお思います。質問終わります。

平 進介議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 次に、順位4番、議席番号5番、

平 進介議員。

なお、平 進介議員から資料の配付について申し入れがあり、会議規則第150条の規定により許可いたしましたので、ご報告いたします。

(5番平 進介議員登壇)

○5番 平 進介議員 本定例会における一般質問は、長井駅親水公園の整備について、並びに最上川官民連携プラットフォームの取り組みと支障木の伐採についての2件であります。それぞれ質問をいたしますので、前向きな答弁をお願いし、質問に入ります。

初めに、大項目の1、長井駅西親水広場の整備についてであります。

私は、市の玄関口である長井駅親水公園を市民の憩いの場とともに、市が目指している水のまちとして発信できるように整備できないかという趣旨で質問を行ってまいります。

市では、長井駅周辺の既存水路を活用し、せせらぎ水路や親水池を配した親水公園と駅前広場の整備を平成22年度までに行っております。自然に近い親水空間をコンセプトにしたということで、水路は土水路構造にして、芝生を張り、とてもきれいな公園で、安らぎを覚えるまちなかのオアシス的な空間だと感じておりました。

翌年度の平成23年度には、長井商工会議所女性会が長井まちづくり基金助成事業を活用して、駅西親水公園にモニュメントを制作いたしました。制作者は長井高校出身で、現在、静岡県伊東市を拠点に活動しておられる石の彫刻家、高橋朗氏であります。3つの作品が駅西の親水公園に配置されています。皆さんもごらんになられたと思いますが、駅舎から線路を渡り、公園に入ると、最初の作品があります。作品名は「花香る里」、ベンチとその脇には旅行かばんと時刻表が置かれ、反対側には赤トンボが羽を休めています。その北側には「水清き郷」の作品があります。小鳥が2羽います。そのうちの1羽は水浴びをし、その脇で、親鳥でしょうか、

その様子を眺めています。一番北側に3つ目の作品があります。作品名は「水美味し郷」であります。小鳥がおいしそうに水を飲んでいますが、どの作品も石というかたたく無機質な材質でありながら、やわらかく、ほのぼのとして、癒やしというものを感じさせてくれます。自然に近い親水空間という公園のコンセプトと高橋氏の作品が一体化した親水公園は、長井におり立った観光客の皆さんの目に触れ、最初に長井に対するいいイメージを膨らませてくれるのではないかと思います。

私は、できればおいでになったお客様にそのイメージをもっと膨らませてもらうために、駅西親水公園から中央十字路を通り、旧長井小学校第一校舎から観光交流センターまで小鳥や魚などの小動物のモニュメントをベンチと一緒に並べ、長井においでいただいた観光客の皆さんの一休みの場所として提供できれば、まちなかへ誘導する一手段にもなるのではないかと思います。現在、本町商店街の梅村呉服店の前にベンチがあります。ベンチの真ん中に小鳥が1羽とまっています。これも高橋氏の作品ですが、ハタオドリという種類だそうです。小鳥の背中にハート型の模様がありますので、ぜひそのハート型の背中をさすっていただければ、いいことがあるかもしれません。このように、長井市内には観光の要素となるものが随所に整備されていると思います。

さて、質問に入ります。

せっかく整備されたすばらしい駅西親水公園ですが、現在は水の流れが悪く、たまり水の状態です。また、芝生の面影もなく、雑草が生い茂っているといった状態です。水路は、公園の中心部付近から南北に分かれて流れています。両方とも100メートル以上の長い水路のようですが、北側の水路は流れがほとんどなく、南側は水がなく、水路といった感じではありません。ことし2月の臨時市議会において、五十嵐議員

からこの件についての質疑がありましたが、現状をどのように捉えているのか、建設参事にお聞きをいたします。

整備当初は非常に環境もよく、市民の憩いの場としての活用などもあったと思います。しかし、整備を行ってから何年もたたないうちに水路としての機能を失くなったということのようですが、自然に近い親水公園をコンセプトに整備された現在の場所は、市民の憩いの場として生かされているのでしょうか。建設課長にお聞きをいたします。

私は、せっかく自然に近い親水公園として整備したのであれば、その土水路に生き物が生息する環境をつくり、そこにメダカや蛍、スズムシやザリガニなど放流などして、市民の皆さんがそれらを観察でき、楽しめる空間をつくるべきだと思います。先日、水路を見てきました。北側の水路に小魚が泳いでいました。種類はわかりませんが、魚は生息しているようです。カモも1羽、ゆったりと泳いでいました。

そこで、平田教育長にお聞きいたします。

教育長は、もともと理科の先生でいらっしゃると思いますので、お聞きをしたいと思うのですが、こうしたメダカや蛍、スズムシやザリガニなどが生息できる環境にするためにはどういったことが必要なのか、教えていただければと思います。

次に、市長にお伺いいたします。

例えばザリガニなどは、以前はつつじ公園のひょうたん池で糸に煮干しをつけて釣れたと聞きますが、今はいないようです。まちなかでは、ザリガニ釣りをする場所はなくなったと聞きます。

そこで、例えばザリガニプロジェクト、メダカプロジェクトなど、市民の皆さんの知恵と協力を得て、この親水公園をまちなかの生き物広場にできないものかと思うのですが、いかがでしょうか。

また、長井駅前は、これから大いに変わってきます。新市庁舎の建設とともに、駅舎や複合施設なども整備される長井市の表玄関口です。その近代的な施設の一角に自然に近い環境があり、そこに生き物が泳ぎ、生息する。夏には蛍が飛び交うといった長井駅をつくり上げて、遠来からの観光客をお迎えしてはどうかと思うのですが、いかがでしょうか。市長の見解をお伺いいたします。

次に、大項目の2、最上川官民連携プラットフォームの取り組みと支障木の伐採についてお聞きをいたします。

現在、市内にある河川の支障木が随分目立ち、その伐採が課題となっています。特に支障木が繁茂している置賜野川の伐採整備が優先課題ではないかという趣旨で質問をしております。

上野川橋から上流、下流を見渡してみました。河川敷は、低水敷を流れる水以外は木々が鬱蒼と繁茂し、丈も相当高くなって、以前のような置賜野川とはかけ離れたような状態になっています。谷地橋から見ると、上流側の右岸の清水町側はパークゴルフ場として整備されており、高水敷も立ち木などは余りありませんが、左岸側は草木が繁茂していますし、中州にも木々が生え始めている状況です。野川橋の下流側は、左岸側で支障木が目立ちます。あかしあ橋からは、特に下流側で支障木がかなり高くなり、枝をいいように伸ばしているのでは、かなり根も張っているのではないかと思います。河川の巡視なども行っていると思いますが、その際にも、かなり支障を来しているのではないかと思えるぐらいの密生した樹木となっております。

近年の集中豪雨は、時として想定をはるかに超える大洪水を引き起こします。長井市においても、堤防の決壊や、堤防を越流し、市内中心部や致芳地区などに被害が及ばないかと危惧する声があります。生活環境の変遷により、近年は山の手入れもおろそかになり、杉の手入れや

ナラ枯れなどの伐採もなかなか進んでいない状況です。昨年、西根森づくりの会が発足し、里山森林の手入れ作業に着手しましたが、まだまだほんの一部であり、里山全体を管理していくことは非常に困難でありますし、こうした組織がもっともっと設立されることが望まれます。置賜野川の上流に長井ダムがありますが、それでも、決して安全ということではないと思います。

流木による被害の例を少し紹介させていただきます。

昨年7月5日から6日にかけて、九州北部を中心に豪雨による被害が発生しました。集中豪雨は毎年のように日本列島各地で発生する災害となってきましたが、昨年の集中豪雨による被害の拡大の原因は流木にあったと指摘されています。被災地に押し寄せた大量の流木、特に被害の大きかった福岡県朝倉市や大分県日田市などでは、上流部の山の至るところで土砂崩れが起き、大量の流木が発生したとのこと。その流木が橋にたまって流れを塞いだことで、川が氾濫し、住宅街に流れが変わり、被害を拡大したものです。大分県日田市の川にかかっていたJRの鉄橋も流されています。橋脚に流木がたまったことで、予想外の大きな力がかかったのではないかと専門家は分析しています。

こうした自然災害がいつどこで起きるかわからない状況になってきています。その対策の一つとして、河川敷内には少なくとも支障木等がないようにしておくことがまずは備えの第一歩ではないかと思います。置賜野川は一級河川ですので、県管理ということになりますが、他の準用河川も含め、市内を流れる河川の現状、特に河川敷内に繁茂する草木や支障木の現状について建設参事にお聞きをいたします。

次に、ことし3月の山形新聞に、支障木伐採「山形モデル」、河川管理、県と国交省が連携とする記事が載っておりました。許可を得て、

お手元に配付させていただいております。記事によれば、河川の流れを阻害する支障木の伐採について、民間活力を積極的に取り入れる仕組みづくりを検討する新組織、最上川官民連携プラットフォームを設立するとのことでもあります。県と国の管理区域を一体化することで作業効率を高める全国初のケースで、行政と事業者双方が枝葉の処理などの課題を共有したとの報道がありました。このビジネスモデルの素案では、伐採候補地として最上川と置賜野川、置賜白川が合流する長井市周辺を選定したとあります。この最上川官民連携プラットフォームの設立の背景と目的について、建設課長にお聞きをいたします。また、この組織に長井市も入っていると思いますが、長井市のかかわりと役割についても建設課長にお聞きをいたします。

さらに、この組織が有効に機能することにより、ビジネスモデルとしての候補地である最上川や置賜野川、そして、置賜白川が合流する付近の支障木の伐採スケジュールや伐採目標なども出されると思いますが、そのあたりの動向について建設課長にお聞きをいたします。

市長にお伺いします。

先ほど来申し上げてきましたが、市内の河川の中でも、近年は特に置賜野川の河川敷内の支障木が繁茂し、集中豪雨の際の倒された支障木が橋にひっかかって、堤防の決壊や越流などにより市内への洪水被害が発生する危険性などをはらんでいると思います。また、水と緑と花の長井を発信する長井市として、長井ダム百秋湖までの往来に際しても、途中の景観を大きく損ねています。

防災力の維持向上については、さまざまな面から取り組んでいく必要があります。新市庁舎の移転新築も、老朽化とともに、災害時における洪水対策や地震対策の一環であります。このたび設立された最上川官民連携プラットフォームがより効果的に機能を発揮し、市内の河川に

おける支障木の伐採が計画的かつ早期に行われるよう強く働きかけをしていただき、そして、中でも、これまで申し上げてきた観点から、置賜野川の支障木伐採を最優先にすべきではないかと思いますが、市長のご見解をお伺いします。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 平 進介議員のご質問にお答えいたします。私のほうからは、2点ほどお答えさせていただきます。

まず最初に、長井駅西親水広場の整備について、この（５）の長井駅新市庁舎と一体的に長井の玄関口として整備すべきでないかというご提言でございます。

まずは、この駅西親水公園につきましては、もう大分前になるわけですが、まちづくり交付金事業の最後に行ったものでございまして、先ほどございましたように、もともとはフラワー長井線の下に大きな暗渠を、U字溝を入れなきゃいけないということで、それに多額の費用がかかると。あわせて、やはり駅周辺の下流側のほうで随分水が氾濫したり、あと中道の上のほうも集中豪雨のときなどが、フラワー長井線の下の管が小さいものですから、水があふれたりするところがあるということから、この暗渠の管を直す際に一緒に、課題となってる、もともとは防風林、防雪林だったわけですが、その当時から比べますと、民家がたくさん建ちましたので、防風林の役割はもう終わったんじゃないかということで、むしろ木によって周りの民家の人たちが大変苦労されてるということから、整備を行ったわけですが、結果として、発想はよかったんですが、水の処理がちょっと誤ったのかなということで、当初はよかったんですが、今現在はなかなか管理するにも管理が難しい状況だと思っております。したがって、その後、長井商工会議所の女性会の人たちからモニュメ

ント、これ高橋先生のモニュメントをせっかく設置いただいたのに、これらが余り生きてないという状況で、やはり今回の市庁舎の建設に、改めてあの周辺をどうしていくのかということの市民の皆様からのご意見やら、あるいは具体的に今かかわってる人たちの助言などもいただいて、整備していきたいと思っております。

お答えなんですけども、私としては、この長井駅、新市庁舎と一体的に、その周りだけっていうことじゃなくて、実はまちなかの、特に水にかかわる課題としては、去年、ことしも多分そうだと思うんですが、長井の水路に梅花藻がたくさん自生していますが、梅花藻というのは水温が高くなると死滅するというので、もう夏の間の水量が通常より多くいただけるわけじゃなくて、なおかつ、この間、観光協会の総会の際に黒獅子の里案内人の代表の田中会長からのお話なんか聞きますと、やっぱりもう少し冷たい水をまちなかに流さなきゃいけないと。あと、絶対的な量がないんですね。ですから、本当に長井が水のまちだということで、市民の皆様、あるいは外からいらした人の皆様に水を、直接目に触れるような水辺空間をつくるには、何か工夫が必要だなと。できればあの周辺で湧き水、湧水池などを探せないのかなと。その湧水をぜひ駅の水辺空間、あるいは水路の中にそういった水を供給できるような、そういったことなども考えなきゃいけないのかなというふうに思っております、メダカプロジェクトとか蛍プロジェクトとかいろいろご提言などもございましたけども、そういったもの、こういったものがいいのか。それらを検討して、庁舎の外構工事という、そういう考え方じゃなくて、長井のまちなかのシンボルとして、この水を生かした長井の水辺空間を生かしたような整備を考えていきたいと思っておりますので、ぜひ引き続きご助言などをいただければというふうに思います。

続きまして、2点目の最上川官民連携プラッ

トフォームの取り組みと支障木の伐採についてでございますけれども、私のほうからは、最後の（５）の特に市内への洪水被害が懸念される置賜野川の支障木の伐採を優先すべきではないかという点でございます。

確かに長井ダムの上流の支障木っていうのは、これはないわけですが、その集中豪雨時の放水した水によって河川敷内の水が上がることによって、そこに自生、自生っていいですか、繁茂している支障木、これらが水に流されて、さまざまな弊害が出てくるということは考えられると思います。したがって、これら支障木については、特に置賜白川と置賜野川のほうが県管理の部分が多いので、県管理の部分と、あと国管理の最上川の部分についてもそうなんですけれども、やはり十分国や県と協議をしながら、私ども、モデル地区として選んでいただいたわけですから、それと川まちづくりの認定を再度いただいたところでございます。川まちづくりについては、今回は置賜白川のほうがメインでございますので、そういったところで、向こうの支障木等も含めて、どう整備するかは検討できるかと思いますが、こちらの置賜野川のほうについては、今回の官民連携プラットフォームの中でぜひ支障木の伐採を野川を優先させていくということも必要だと思っておりますので、これからも引き続きご指導いただければというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** 私のほうには、平議員のほうからは、メダカや蛍、それから、スズムシやザリガニなどが生息できる環境にするためには、どういったことが必要なかというご質問をいただきました。

まず、簡単に申し上げますと、メダカや蛍といった生き物が住みつく環境は、それらの生き物が住んでいる自然の状態にできるだけ近い状態を再現すると、これが基本だろうというふう

に思います。具体的に申し上げますと、例えばメダカや蛍に限って申し上げますと、一定量の水が１年を通じて流れているということ。それから、川底には藻がついた小石や落ち葉などが沈んで、そして、水草が生えているということ。これは餌の関係でございます。それから、川岸にはある程度土や泥の部分があって、蛍の幼虫の餌となる、こちらのほうではかんによぼといいますが、いわゆるカワニナでございますけれども、このカワニナが繁殖しやすい環境であること。カワニナは、ゲンジボタル、ヘイケボタル、それぞれの蛍の餌になるわけでございます。さらには、メダカや蛍の幼虫がカラスなどの天敵から身を隠す茂みが残っている状態が理想的というふうに思われます。それから、お尋ねの中にスズムシということもありましたけれども、スズムシが生息する環境としましては、理想状態ですけれども、腐葉土などの比較的やわらかい土、このやわらかい土に膝丈以上の草が生え、そして、適度な湿り気があると。そして、余り明る過ぎない環境がよいというふうにされているところでございます。

それから、ザリガニについてのご質問ございましたが、現在、この周辺に生息しているザリガニにつきましても、ほとんど日本在来種のニホンザリガニは本当に少なくなってございまして、ほとんどがアメリカザリガニだというふうに言われております。国内全体に広く今、アメリカザリガニは生息しているわけでございますけれども、これは雑食性でございますので、メダカや蛍の幼虫とは一緒にしないほうがいいのではないかとこのように思われます。

また、アメリカザリガニにつきましても、特定外来生物、これには指定されていないものの、要注意外来生物、それから、日本の侵略的外来種といったものに指定されておりますので、公的な場での繁殖にはやや問題があるのではないかなというふうにも思っているところでござい

ます。

最近は、昔ながらのメダカや蛍、それから、トンボなどの姿を見る機会、一時期よりは若干ふえてきたかなというふうにも思うんですけども、それでも昔よりは少なくなったというのが現状でございます。原因として考えられることは、当然生活排水であったり、それから、除草剤や殺虫剤などの使用等による水質の変化、自然環境の変化に加えまして、人工的な河川の整備等があるというふうに言われてございます。そういうような要因がありますけれども、先ほど申し上げましたような環境が再び再現できますれば、昔ながらの生き物たちも少しずつ戻ってくるのではないかなというふうに思っているところでございます。

○**渋谷佐輔議長** 青木邦博建設参事。

○**青木邦博建設参事** 初めに、長井駅西広場の現状をどう捉えているかについてお答えいたします。

長井駅広場の中の長井駅西広場は、自然に近い親水空間をコンセプトに、土水路構造にして、あずまやを中心にそれぞれ南端、北端の普通河川より取水して、幅40センチの側溝より土水路の親水路に、それぞれ120メートルございますが、Uの字型に水を流し込む構造となっております。しかしながら、絶対的に水路勾配が小さいことや、土水路であるために流速が確保できなくて、水が滞留し、草が繁茂している状況で、夏場の悪臭等について地元住民の方より苦情を寄せられていることは2月臨時会で五十嵐議員の答弁でも申し上げたとおりでございます。

先日、梅雨前の公園内の草刈りが終了したところでございますが、今後、水路に関しましては、技術的なことですが、土水路の断面をもう少し小さくして、側面にも一部コンクリートを張って、同時に落差工をなくして、少しでも一定勾配にするというような工法をとって流速を確保することがまず一つ。

あともう一つは、滞留を防ぐために、安定した取水を確保するという。Uの字型ではなく、一方向への流路工ということも検討していきたいというふうに考えているところでございます。

続きまして、市内を流れる河川の現状、特に河川敷内に繁茂する草木や支障木の現状についてお答えいたします。

平議員から、上野川橋、谷地橋、野川橋、そして、あかしあ橋から見た風景をご紹介いただきましたが、まさにそのとおりでございます。特にニセアカシアが繁茂している状況でございます。昨年の九州北部の集中豪雨や一昨年の台風10号による岩手豪雨でも、橋脚にひっかかった流木がダムサイトになって、一瞬にして堤防を越流して大きな被害をもたらしております。洪水到達時間と申しまして、山頂に降った1滴の雨粒が流域の集合体になって最終的に河川に流れ込む時間というのは、計算式で予測できません。ただし、それは自然流下の場合でございます。流木によるダムアップについては誰も予測はできません。最上川のような大河川になりますと、橋脚間の延長がありますので、その心配は少なくなると思いますが、特に置賜野川などの中河川につきましては、長井ダムの水量調節機能はあるものの、可能性として決して小さくはないというふうに考えております。

昨年度より5カ年の国土交通省の減災のための目標は、逃げおくれゼロでございます。これは、ハード整備では施しようのない昨今のゲリラ豪雨をあらわしてございまして、流木も考慮した避難勧告、指示が不可欠であることを物語っております。山形県におきましても、平議員ご指摘の問題を重視しており、河川流下能力向上対策事業として河道内の堆積土砂の撤去や支障木伐採による治水安全度の向上に取り組んでおります。

また、先ほどの新聞記事でもご紹介ありまし

た、国土交通省と山形県が支障木の伐採について、山形モデルとしてこの長井市周辺を区域設定し、先日、国土交通省、秋本政務官が視察に来られました。官民連携したこの取り組みが確実に進捗していくものと期待しているところがございます。

なお、市管理の準用河川につきましては、堤防を有しない小河川がほとんどでございますので、河川管理費の中で随時草刈り等をして、流下断面の確保を行っているところでございます。

○**渋谷佐輔議長** 多田茂之建設課長。

○**多田茂之建設課長** 1つ目の長井駅西親水広場の整備についての質問で、市民の憩いの場として生かされているかというご質問でございますが、先ほど青木参事の答弁でもありましたように、現在の水路は水の取り入れが困難で、勾配がほとんどない延長の長い水路となっております。維持管理が難しく、地域の方にご迷惑をおかけしておりますが、南側の水路には水がなく、そして、生活排水が流入しておりますし、北側水路については、入り水はありますが、流れが停滞しておりますので、残念ながら憩いの場としては生かされていない状況でございます。

そして、2つ目の最上川官民連携プラットフォームの取り組みと支障木の伐採についての質問でございます。

2番の設立の背景と目的についてでございますが、国、県が管理しております河川の流下阻害となる河道内の支障木の伐採につきましては、これまでも公募伐採による管理を行ってまいりましたが、伐採規模の拡大や継続的な伐採を推進していくために河川管理の予算をより有効に使う必要があります。支障木伐採コストの縮減が求められたということでございます。そして、それを達成するため、官民、地域が連携をして河川の維持管理コストの縮減と安定的な樹木管理を進めるため、最上川官民連携プラットフォームが設立されました。民間の資金力、機動力

による計画的な伐採による治水安全度の向上とコスト削減、河川内の民地の支障木伐採に市と地域が連携して取り組むことで、地域防災力、防犯、景観等への意識向上や、安定した木材の供給による、例えば木質バイオマス事業等への事業機会の創出や地域振興につながるものとしております。

そして、3番目の長井市のかかわりと役割でございますが、市の主な役割としましては、河川内にある民有地の支障木について、地域と連携、協力をしながら、伐採に向けて土地所有者と調整、そして、河川管理者への伐採同意の取りつけや地域からの伐採要望の取りまとめ等となっております。

続きまして、今後のスケジュールと伐採目標でございますが、このプラットフォームにつきましては、まだ立ち上がったばかりで、事業内容につきましては、これから精査、要綱等を検討していくようでございます。現地踏査による現場状況確認や伐採モニタリングを行うなど、公募伐採の条件の整理、確定を行い、ことしの9月ごろをめどに伐採企業の募集や選定を行って、それ以降、伐採に入るスケジュールとなっております。

そして、伐採目標としましては、置賜野川エリアが長井橋上流から下流の白鷹境までの約3キロと、あと野川と最上川の合流部から上野川の上流部までの約6キロ、これらおよそ50ヘクタールになります。また、置賜白川エリアですが、最上川と白川の合流部から飯豊町の椿地区までの約7キロメートルで、およそ90ヘクタールになるようです。これを5年から10年かけて完了したいというふうにしておるようでございます。

○**渋谷佐輔議長** 5番、平 進介議員。

○**5番 平 進介議員** それぞれに丁寧な答弁をいただきましてありがとうございます。

きょうは結構時間ありますので、いろいろこ

れまでもありましたから、少し調整してまいりました。

途中で終わってしまうかもしれませんが、まず最初に、駅西親水広場の整備についてであります。

市長からは、新しい庁舎建設とあわせて、市民と、それから助言を得ながら整備してまいりたいというふうなことであります。実際に今年度、親水公園のところについて手入れをするというような予算などはあるということですが、先ほど参事のほうから、U型になっている水路のところを一方方向への流れを検討したいということですが、こうした格好にしながら、自然に近い親水公園というふうなことで整備なっていく予定なのでしょうか。その辺のところもこれからの検討課題ですか。いかがですか。じゃあ、青木参事、お願いします。

○**渋谷佐輔議長** 青木邦博建設参事。

○**青木邦博建設参事** お答えいたします。

先ほど私申し上げましたものは、あくまでも技術的なもの。水路勾配を確保して、あと水源を確保するというのは技術的なものでございまして、それは今年度、維持工事の中でできるのであればということを考えております。ただし、精査する必要は十分ありまして、親水公園として生かしていくと。それをもっと下流にまで広げていくということであれば、もう少し検討していく必要は十分あるというふうに考えております。

○**渋谷佐輔議長** 5番、平 進介議員。

○**5番 平 進介議員** ありがとうございます。

そうすると、実際に技術的なところでは、一方向の流れをもって、少し今の流速をとっていくということなのだというふうに思いますが、自然公園化していくと、市長、よろしいですか。その考え方として、今のように親水公園、自然的な親水公園として、私が申し上げたい生き物広場的なものについて検討も当然していただ

るというふうに思うんですが、その辺のところについて再度お願いをしたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 自然公園的なものにするとしたら、水量が足りないんじゃないですか。今も技術的な面で青木参事のほうで申し上げましたけれども、もっと水量がどんどん入れば、停滞しないんですよ、勾配もないんですけども、入ってくる水量が少ないと。ですから、例えばあやめ公園のあめや会館の南側っていいですか、池がありますよね。あそこ湧き水があつて、そこに、あそこなども虫が生息しているわけですけども、課題としてはそういった水をどうするかということ、さっき申し上げましたけれども、そういったことを検討する必要があるということと、駅の構内ですので、駅のプラットフォームから、今度、駅と市庁舎というふうに整備していくかと。その駅西広場も重要な要素なんですけども、駅のプラットフォームとか、あとは北側が旧マルコン電子の十字路、大町に続く踏切ありますよね。あそこの道路と、あともう1本がつつじ公園から百間道路に入る県道、あそこの区間をどういうふうにして自然環境に近いような形で整備できるかというぐらいまで考えていかないと、平議員おっしゃるのもわかるんですが、そう簡単なことではなくて、やっぱり反省としては、駅西広場については、失礼ですけど、ついでにあのぐらい整備したわけですよ、ついでに。一番は、あれなんですよね。U字溝っていいですか、あれがすごくお金がかかったんです、あれだけで1億円近くかかったんですけども。それと、予算が余りなかったもんですから、あの整備で終わってしまったんですけども、やるんなら、きちんとやっぱり計画を立てて、その後も継続的に自然公園だったら自然公園として生かしていけるような計画がないと、せっかくの提案が中途半端なものにな

って、後々批判が出てくるということになりかねませんので、そこは検討していかないと、なかなか難しいかなというふうに思っているところですよ。

○**渋谷佐輔議長** 5番、平 進介議員。

○**5番 平 進介議員** ありがとうございます。

市民の方の中にも、メダカを飼っている方、スズムシを飼っている方などもいらっしゃるんです、実際に。ザリガニなんかは、教育長任せろっていうふうなお話なんかちょっといたりしたんですが、例えばメダカを飼う場合ですが、あんまりいっぱい水量、流れがあり過ぎると、メダカがおってしまっただめだというふうなことのようなんです、たまり水にならない、たまり水っていうか、池がかなり、水路が濁ってしまっても困るわけですけども、余り流れがあり過ぎても困るというふうな、メダカの水の流れはどの辺がいいのか、ちょっと教育長、教えてください。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** メダカにつきましては、それほど水量は要らないのではないかなというふうに思います。一定量の新鮮な水が流れてきて、その中に酸素が溶け込んでいけば、まず、メダカとしてはオーケーで、ただ、メダカの餌となるもの、要するに植物プランクトン、動物プランクトンもある程度繁殖しなければなりませんので、それについてはちょうど、先ほど申し上げましたけれど、脇のところに土の部分があったりして、そこから適度な有機物がしみ出て、それを餌に植物プランクトン、動物プランクトンが繁殖する。それを食べて、メダカが繁殖できるという環境で、水量としてはそれほどは必要はないというふうに思います、メダカに関して言えば。

○**渋谷佐輔議長** 5番、平 進介議員。

○**5番 平 進介議員** ありがとうございます。

蛍についても、餌となるカワニナがいること

が条件の一つになってくるわけですが、やっぱり駅おりたらば、そんな夜、フラワー長井線も遅くまで走ってるわけではありませんけども、何かちらほらと蛍が飛んでいたという、蛍の里的な長井駅は非常に魅力的だと思うんですが、ひとつこうしたところも踏まえて整備のほうを検討いただければ、新しい庁舎と一緒にというようなことですので、お願いしたいというふうに思います。

あと、彫刻ですね。小鳥の彫刻、今、3つ、女性の会でしていただいたものあるわけですが、そうした流れの中で、梅村呉服店の前にもベンチがあって、そこにも小鳥がとまっている。そうしたまちなかにずっと、先ほど申し上げましたけども、この縦線、東西線の道路、そこら今度は横線のところも出てくると思いますが、そうしたところにそうした作品を展示して、一休みの場所にしていくというふうな考え方については、市長、いかがでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 駅前通りについては、これもやはり本町の街路事業の終わった後に駅前通りも街路事業をしていただくというようなことで県のほうに要望してるところでございます、その際には、ぜひまずは歩道と水路を一体として整備してもらえないかと。水を表に出すということですね、歩道のところに。ということを考えていきたいと思っております。あそこ勾配もあるもんですから、自然と最上川のほうに流れますんでね。例えば高橋先生の作品などのモニュメントとベンチなどについては、ちょっとモニュメントについては、まだ具体的にはないんですけども、まずは本町通りだろうというふうに思っております。それとあと、これからまちなか歩きとか、観光交流のお客様にまちなか歩いていただくときに、休憩するベンチとか、あと水を飲む、何ですか、湧き水みたいにするかどうかは別として、まちなかにちょっと長井の

おいしい水を飲めるところとか、あとは、ちょっとミニポケット公園とか、そういったものをいろいろ配置したいと思ってます。そう簡単にいかないのではありますけれども、ぜひ今後、さまざまな補助などを見つけて、そういったものを整備、ことし、来年、2020年、再来年を目標に整備していきたいというふうに思っておりますので、その中でいろいろまたご提言をいただければというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 5番、平 進介議員。

○**5番 平 進介議員** ありがとうございます。

やはり2年後までの新しい庁舎とのかかわりというのは結構出てくると思いますし、その辺のところでも癒やし空間、安らぎの場のところも考えていただければというふうに思います。よろしく願いいたします。

次に、2番目の官民連携プラットフォームの件でございます。

これについては、これから具体的に協議、新聞報道ですと、6月になって、先ほど答弁で、9月に事業者の選定等入ってくるというようなことでありますので、これからのことだというふうに思いますが、ぜひ、皆さんもごらんのとおり、かなり支障木が繁茂しておりますので、ぜひ県のほうに働きかけをして、優先的にしていただきたいというふうに思うわけですけれども、この事業者についてですが、伐採する事業者について、例えば今まで何か民間の団体も入ったことがあるというふうに、ちょっと今までの例でいうと、長井市内の。例えば昨年設立した西根森づくりの会という、ああいった組織、任意団体であります。そういった組織なども、例えばこれから5年、10年のスパンの中で河川敷内の支障木を定期的に伐採していくというふうなところの事業者として参画できるというふうな、そういうふうな体制など、どういった条件になるのか、建設課長にお聞きをしたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 多田茂之建設課長。

○**多田茂之建設課長** お答えをします。

支障木伐採業者にはいろんな技術やノウハウを持っている事業者の方がたくさんおまして、国、県ではたくさんの方々に参加していただきたいということで、決定の方法はプロポーザル的な方法で決めていくことになるかもしれないということですが、西根森づくりの会でもぜひ応募していただければと思います。よろしく願いいたします。

○**渋谷佐輔議長** 5番、平 進介議員。

○**5番 平 進介議員** この置賜野川の整備につきましては、今までの質問を見ますと、平成25年の12月に赤間議員が野川左岸と右岸のバランスのとれた環境整備についてということで質問されております。また、28年6月の一般質問では、金子豊美議員が野川左岸の整備についてということで、そして、同じく平成28年9月の予算総括で、蒲生光男議員が上野川橋上流部の右岸側の環境整備についてということで、いろいろと議員の方も関心を持って見ておられるというふうには思いますし、昔から比べると、支障木がかなりというか、いっぱい過ぎるほど立っているというふうなことでありますので、最後、市長にこの取り組み、今までも答弁いただいたわけですが、その姿勢を再度お聞かせいただいて、私の質問は終わっていきいたいというふうに思います。よろしく願いいたします。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** ただいま平議員からご紹介ありましたように、多くの平野地区、致芳地区、西根地区の議員の皆様から提言をいただいております。

平野地区のほうの締切堤防については、地元平野の皆様のご長年にわたるご尽力によりまして、あのようにきれいに整備いただきましたので、そこから至る下の部分が、せっかくそこを皆さんの本当に献身的な整備によってきれいになっ

たのに、支障木が目立つようでは、やっぱり野川、水清き野川ですね、これ泣きますので、やっぱりそこは県のほうにもいろいろお願いしながら、支障木を伐採していただくようお願いしてまいりたいと思ってます。

○**渋谷佐輔議長** 5番、平 進介議員。

○**5番 平 進介議員** ありがとうございます。
以上で質問を終わります。

○**渋谷佐輔議長** ここで暫時休憩します。再開は3時20分といたします。

午後 2時55分 休憩

午後 3時19分 再開

○**渋谷佐輔議長** 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

鈴木富美子議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 次に、順位5番、議席番号6番、鈴木富美子議員。

(6番鈴木富美子議員登壇)

○**6番 鈴木富美子議員** 長井創生の鈴木富美子です。議場は大変暑くなっております。暑さに負けず、爽やかな気持ちで本日最後の質問に入らせていただきます。ご答弁よろしくお願いたします。

平成30年度市長の施政方針の中で、新しい人の流れをつくる取り組みとして、人や物の交流を拡大させ、まちを活性化するため、効果的なPRや四季折々の食や体験、地元の人との交流などを盛り込んだ滞在型観光交流の構築、さらに、長井市東京事務所などを活用した移住、交

流事業の推進により、魅力あふれる長井の資源を全国に発信する。また、昨年オープンした観光交流センター 道の駅 川のみなと長井より中心市街地への誘客を指すとしております。

交流人口の増加に欠かせないボランティアガイドについては、長井黒獅子の里案内人の皆様が対応しておられます。昨年の29年度は約9,300人のお客様を案内されております。しかし、今年度に入り、個人のご都合や諸事情等でおやめになられた方が多く、今後の対応を真剣に考えていく必要があるのではないのでしょうか。

それでは、第1項目に入らせていただきます。ボランティアガイドの今後の対策についてお伺いいたします。

初めに、現在の形でのボランティアガイドについて、平成28年6月議会で市長に質問をさせていただきましたが、市長答弁の中で、今後やまがた長井観光局も含めて検討していくとのことでしたが、その後、検討していただいたのでしょうか。その結果はどのようなのでしょうか、市長にお伺いいたします。

続きまして、3年前になりますが、長井商工会議所の中に雇用創造協議会がありました。その事業の中で、おらんだの長井検定というものを実施されました。そのとき私も受験いたしました。長井市の魅力が満載でした。そして、長井市のことを知らない自分に驚いたことを忘れられません。長井に住んでいながら地元のことを知らないということは、よそからいらした皆様には、長井のよさを伝えられないのではないのでしょうか。

そこで提案させていただきたいのですが、おらんだの長井検定を復活させ、多くの市民に我がまちを知っていただき、さらに、ガイドに興味を持っていただくことで案内人の存続につながっていくと思いますが、商工観光課長はどのようにお考えでしょうか。

先日、山形百名山である長井市の熊野山に5